

平成24年 9月 6日

佐伯市長 西嶋 泰義 様

佐伯市総合計画審議会
会 長 谷川 憲一

「第1次佐伯市総合計画後期基本計画」について（答申）

平成24年6月25日付け佐企第206号で諮問のあった第1次佐伯市総合計画後期基本計画について、「第1次佐伯市総合計画後期基本計画（素案）」を基に審議した結果、下記の意見を付して総括的に妥当と認めます。

なお、意見については、今後の検討を行うとともに、後期基本計画策定に当たり、できる限り反映されることを望みます。

記

1 自然環境分野

(1) 素案12ページ

自然環境の保全という観点では理解しているが、今回（九州北部豪雨）のような水害がいつ起こるかも分からない。九州1位の清流河川というよりも氾濫させないために、河床を掘削するように働きかけるべきである。

(2) 素案13ページ

目標値（4）番匠川の清浄化 九州1位について、目標達成のための取組が見えにくい。市民周知が必要である。

2 生活基盤分野

(1) 素案18ページ

現状と課題の「主要県道の早期着工」及び具体的な取組（2）国道及び主要県道への要望については、要望路線には、地域の生活道となっている路線もあるので、具体的な工期等も含めて強く要望していただきたい。

(2) 素案20ページ

考え方について、「商工会議所や市民との連携を図りながら、「佐伯市中心市街地活性化基本計画」に基づき、活性化策を推進します。」の一文を加えるべきである。

(3) 素案20ページ

大手前再開発事業の変更はあったが、変更前に掲げた目標値を達成するという考え方で取り組んでもらいたい。

(4) 素案20ページ

目標の数値について、中心市街地活性化基本計画との整合性を確認すること。

(5) 素案21ページ

「鉄道・航路等の交通手段の確保に取り組みます」とあるが、「電車に乗るまで」「船に乗るまで」の交通手段に不便を感じている。それぞれの乗り継ぎを考慮した取組も必要である。

3 生活環境分野

(1) 素案 25ページ

個別目標2の「公園等」の「等」について、何を指すのかを明記した方が良い。おそらく緑地や街路樹などを指していると考えられるが、自然環境分野とのリンクの面からも「オープンスペース」というような表記に変えた方が良いのではないかと考える。

(2) 素案26ページ

3現状と課題の中に、「東南海・南海地震などの地震と津波に備え、避難路等を整備しました。」とありますが、この先まだまだ整備が必要と考える。

(3) 素案27ページ

消防団員確保の目標が上がっているが、現状での消防団員確保は、非常に難しい問題の一つである。消防団員の待遇を改善する方向性が欲しい。最近では消防への予算が減らされているのが現状である。平成29年度2,000名（機能別消防団を含む）とあるが、機能別消防団が主になり、消防団員がいなくなることを危惧している。消防団員数29年度2,000名としてもらいたい。

(4) 素案26ページ

地域防災・減災については、ハード整備とソフト対策の連動が大切である。個別目標に「人づくり」という言葉を入れるべきである。

4 保健医療福祉分野

(1) 素案29ページ

救急救命士の人員確保についての取組を行うべき。

(2) 素案29ページ

中学生までの医療費助成について、大変感謝しているが、「無料だから」と安易に病院を受診する親も多く見受けられ、夜間の診療も含め医師の負担増が心配である。医師の負担を減らし、医療費を増加させないためにも、子どもの医療費助成を「無料」ではなく、一定額負担する方向を考えた方が良い。適正受診を啓発するより効果が高いと考える。

(3) 素案30ページ

「目標値（1）健康づくりのための地区組織の活動回数を増やす。」現状値が、運動普及推進協議会404回、食生活改善推進協議会49,951回となっているが、目標値として適正な数値なのか。

(4) 素案32ページ

災害時には個人ボランティアの力が必要になる。しかし、個人ボランティアの認識不足によるトラブルが発生している。今後、個人ボランティアの育成にも取り組むべきである。

(5) 素案33ページ

具体的な取組（1）について、佐伯市や子どもたちにとって、幼稚園と保育所を一体化することが本当に必要なのか。保育所の延長保育や児童クラブの充実で対応できるのであれば、手間を掛けて幼保を一体化する必要はないと考える。周囲でも一体化を求める声を聞いたことはない。

5 教育文化分野

(1) 素案40ページ

具体的な取組(2)について、読書活動を推進することは、豊かな心、学力向上、双方に必要なことで、是非とも取り組んで欲しい。しかし、本当に読書活動を推進しようと思うのなら、各小中学校に司書教諭又は司書を配置し、それらの指導の下で地域のボランティアや、図書館と連携し、子どもが本に出会う機会を増やすことが大切であるとする。目標を図書館の貸出冊数に置くのではなく、もう少し直接子ども達に影響を与える部分での目標を設定した方が良いのではないか。

(2) 素案38ページ

地域に生まれた子ども達が、自分のふるさとをどれだけ理解しているのかということを常に考えている。例えば佐伯市の歴史、文化、産業を勉強する授業時間を作れないのか。できれば、佐伯市だけの教科書を作って取り組んでほしい。

(3) 素案38ページ

城山について、歴史的遺産の保全という観点を踏まえ、観光開発などに偏ったものでなく、自然環境と共存しながら歴史的遺産としての価値をいかした活用方法の検討をしていく取組を挙げるべき。

6 産業振興分野

(1) 素案44ページ

ブランドについては、消費者目線でロングスパンでのブランド化を行ってほしい。ものの価値だけでなく、生産者の心意気も大切である。そういった取組が消費者を引きつける。また、佐伯ブランドとして、まず、佐伯という名前のイメージ定着を図る取組も必要である。

(2) 素案48ページ

新たに企業誘致すると、かなりの費用が必要になる。企業留置について積極的に取り組むべき。あわせて、企業だけでなく、商店などの自営業者が後継者や従業員を増やすことが人口減少の抑制にもつながる。今、頑張っている企業や自営業者に対しての施策を講じていくべきである。

(3) 素案49ページ

この計画期間において、東九州自動車道の接続やJR大分駅の駅ビルが完成する。これらを想定して、「住んでよし、訪れてよし」の訪れるときの環境が整っていくことから、高速道や日豊本線を活用した観光の取組をするべき。

7 まちづくり分野

(1) 素案60ページ

地域の意見を反映するには、今の振興局を更に地域と密着させる必要がある。窓口業務より、実践型の振興局体制が望ましい。

(2) 素案60ページ

合併して一つになったということは理解しているが、合併の歴史や地域への思いを大事にするという観点からも旧町村名を後期基本計画の中に残して欲しい。

8 全般

(1) 前期基本計画の検証結果について

目標値の評価が数値だけで評価されている。数値で達成できていなくても、アンケート結果では評価されている項目もある。数値結果にこだわりすぎることなく、計画策定に反映させて欲しい。

(2) 改訂箇所の表記について

素案では、改訂箇所を赤字で表記しているが、製本されるときは、モノクロ表示になると思う。改訂された部分を明示するとか、継続分は印を付けるとかをした方がよい。

(3) 目標値の表記について

累計なのか単年度なのか誤解を招かないような表記をすべき。

(4) 教育を取り入れた取組について

全ての分野において、教育という観点は重要な位置付けとなる。それにより各分野毎の引き継いでいくべき取組や将来の佐伯市を支える人材の育成につながる。各分野で教育を取り入れた取組を進めていくべきである。